

### 第30回ディベート甲子園中学の部 論題解説

「日本は中学生以下の SNS の利用を全面的に禁止すべきである。是か非か」

\*ここでいう SNS とは、文章や写真、動画などの投稿によって、不特定多数とのコミュニケーションを主たる目的とするインターネット上のサービスとする。

\*以下のいずれかに該当するサービスは、ここでいう SNS とはみなさない

- ・アカウント登録なしで、文章や写真、動画などの投稿ができるもの
- ・メッセージングアプリや電子メールなど、特定の利用者間でのコミュニケーションを主たる目的とするもの
- ・オンラインゲームやニュースサイトなど、チャットやコメントが主たる目的ではないもの
- ・教育または健康を目的としたもの

\*前項でいう SNS に該当するサービスを提供している全ての事業者に対該サービスを中学生以下に利用させないことを義務付け、国が規制対象となる事業者を指定する。

論題検討委員 齋藤優季

(論題解説の位置づけについて)

論題解説は、ディベート甲子園に参加される中学生高校生が、論題発表後速やかに、資料の調査、議論の構築などディベートの準備にとりかかるように、論題の解釈や想定されるいくつかの議論について解説したものです。論題解説が、論題の解釈や議論の範囲を制限するものではありません。全国の参加者が半年間、様々なアイデアを出し工夫を凝らして議論を構築することが奨励されます。

#### 1. はじめに

今大会の論題は、第26回、第27回と同じく、中学生の皆様が直接的に関わりのある論題となっています。皆様も SNS を通じて友人と会話したり、好きなものについて発信したり、時には練習試合の募集をしたりと様々な方法で SNS を活用しているのではないのでしょうか。SNS は単にコミュニケーションの一形態というだけでなく、自己実現の方法の一つになっていると言えるでしょう。今回の論題では、SNS の様々な側面について論じて頂くこととなります。

#### 2. 論題の背景

2000年代の mixi の流行から本格的に始まった SNS のブームはそれぞれの時代の若年層に牽引されてきました。現在も、若年層を中心に様々な SNS が利用されています。2023年の中学生の利用率について見ると、TikTok が52%、Instagram は47%、Twitter (現 X) は27%となっており、中学生の生活の一部になりつつあることが伺えます<sup>1</sup>。

しかし、SNS の過度な使用はメンタルヘルスに悪影響を及ぼす可能性が指摘されており、規制についての議論が世界的に進んでいます<sup>2</sup>。SNS でのい

じめを発端として自殺した子供を持つ親などが声を挙げたことで、米国を含む複数の国で規制が取り沙汰されるようになりました<sup>3</sup>。また、SNS が犯罪の温床となっている可能性も示唆されており、安全面からも SNS に懸念が生じています<sup>4</sup>。さらに、SNS 事業者はプライバシー保護や悪質な広告・コンテンツの管理不足などで批判を浴びることも多く<sup>5</sup>、SNS 事業者への不信感も SNS 規制の背景の一つとして考えられます。

日本では、SNS の規制に関する法律・条例は制定されていません。ただ、事業者がアカウント登録の際に年齢制限を課したり<sup>6</sup>、未成年用に別のサービスを提供したりしていることもあります<sup>7</sup>。保護者もアプリのダウンロードを禁止したり、アプリごとの利用時間を制限したりするほか、有害な情報へのアクセスを防ぐためにフィルタリングを活用することもできます。

一方、海外では、未成年の SNS 利用について規制を進めている国もあります。以下では、その一部を示します。

#### 【オーストラリア】

オーストラリアは2024年、世界で初めて16歳

<sup>1</sup> モバイル社会研究所「モバイル社会白書2024年版」(2024)

[https://www.mobaken.jp/whitepaper/wp24/pdf/wp24\\_all.pdf](https://www.mobaken.jp/whitepaper/wp24/pdf/wp24_all.pdf)

<sup>2</sup> 日本経済新聞「SNSの多用「若者に重大なリスク」米公衆衛生トップ」(2023年5月24日)

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGN23DAA0T20C23A500000/>

<sup>3</sup> 時事通信「子どものSNS規制拡大 精神への悪影響懸念—米」(2024年03月27日)

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2024032700741&g=int>

<sup>4</sup> 朝日新聞「SNSから犯罪被害、昨年子ども1665人小学生、10年前の5倍」(2024年3月14日)

<https://www.asahi.com/articles/ASS3F5W9XS3FUTIL01C.html>

<sup>5</sup> 朝日新聞「自民、詐欺広告の法規制を提言 「日本の市場を軽視」事業者を批判」(2024年5月24日)

<https://www.asahi.com/articles/ASS5S3CTXS5SULFA005M.html>

<sup>6</sup> Instagram、X は共に利用規約でアカウント登録は13歳以上に限ると定めています

<sup>7</sup> YouTube Kids や Instagram のティーンアカウントなど

未満の SNS 利用を全面禁止しました<sup>8</sup>。SNS を運営する事業者に対して、利用禁止の措置をとることを義務付けるものであり、罰金は最大で約 50 億円になります。

### 【アメリカ】

アメリカでは、一部の州において未成年の SNS 利用について規制を設けています<sup>9</sup>。その方法はアカウント作成時の年齢確認を義務付けるものや保護者の同意を必要とするもの、利用時間を制限するものなど様々です。

### 【フランス】

フランスは 2023 年、SNS 事業者に対して 15 歳未満の SNS の利用登録を制限する法律を制定しました<sup>10</sup>。親権者の同意がない 15 歳未満についての利用登録は拒否し、親権者がアカウントの停止を求めることも可能としています。

これ以外にもイギリス、EU など規制が進んでいます。規制対象の SNS や規制の方法が本論題と異なることもあるので、海外の事例を参照する際は気をつけて利用してください。

## 3. 論題の対象・範囲

論題中の SNS とは、「文章や写真、動画などの投稿によって、不特定多数とのコミュニケーションを主たる目的とするインターネット上のサービス」とされています。具体的には、Instagram や Facebook などを用いて不特定多数が見られる状態で写真や文章を投稿することが含まれます。また、付帯文の 1、2 で定める通り、「特定の利用者間でのコミュニケーションを主たる目的とするもの」については規制の対象外になっています。つまり、学校の友人と LINE を通じて個別にチャットすることはプラン後も可能です。

一方、ニュース記事や文献、学術研究で用いられる「SNS」や「ソーシャルメディア」といった用語が指し示す対象と本論題中の SNS が異なる可能性もあります。資料を読む際や引用する際には何について書かれた記事なのかに留意してください。

禁止の仕方にも注意が必要です。国が「事業者に対して、中学生以下に自身の運営する SNS を利用させないことを義務付ける」と付帯文で定められていますが、事業者は利用者の年齢制限をどう行うのか（アカウント作成時の生年月日での判断なのか、身分証明書を必要とするのか）や事業者はどう遵守させるかについても考える必要があるでしょう。肯定側はどう禁止するのかについて事前にチーム内で話し合っていくこと、必要であればプランの中で明示することが大事になるでしょう。プランで明示しないとしても、質疑で聞かれることも考えられるため、どのように応答するかチームで応答の方針を考えるようにするのが望ましいです。

## 4. 想定されるメリット、デメリット、主な争点

### (1) メリットの例

#### ・SNS に関わる犯罪、トラブルの減少

SNS の利用により、見知らぬ人とコミュニケーションを取ることができるようになります。その結果、未成年が性被害、誘拐、詐欺などの犯罪に巻き込まれることも考えられます。特に、自画撮り被害と言われる性被害については多くが SNS に起因するとする調査もあります<sup>11</sup>。また、SNS を通じて闇バイトに加担し、中学生が逮捕される例もあります<sup>12</sup>。他にも、同級生などと SNS でコミュニケーションを行う際も、いじめなどのトラブルが多く発生しています<sup>13</sup>。よって、肯定側はこうした SNS に起因する犯罪、トラブルの減少をメリットとして挙げることが考えられます。

一方、こうした犯罪、トラブルは学校や個人間のチャットなどでも同様に起きる可能性もあります。SNS を禁止することで、犯罪自体が減るのか他の場所で同じ犯罪が起きるのかで議論の評価は大きく変わり得ます。SNS が犯罪の温床になりやすい固有の理由があるのかについて議論するとお互い一歩進んだ議論近づけるのではないのでしょうか。

#### ・SNS の過度な使用の予防

SNS を利用していると、友人との会話が夜遅くま

<sup>8</sup> 日本経済新聞「オーストラリア、16 歳未満の SNS 利用禁止案可決 世界初」（2024 年 11 月 28 日）  
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGM289250Y4A121C2000000/>

<sup>9</sup> こども家庭庁成育局「アメリカ合衆国各州における青少年のインターネット環境整備に係る取組等の調査 調査報告書」（2024）  
[https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/6b2c8f31-578d-4268-a57e-94acd694439f/a94d5ce9/20240329\\_policies\\_youth-kankyuu\\_internet\\_research\\_02.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/6b2c8f31-578d-4268-a57e-94acd694439f/a94d5ce9/20240329_policies_youth-kankyuu_internet_research_02.pdf)

<sup>10</sup> 奈良詩織「【フランス】子供の SNS 利用制限及びネットいじめ対策に関する法律」（2023）  
<https://dl.ndl.go.jp/view/prepareDownload?itemI>  
特定非営利活動法人 全国教室ディベート連盟

[d=info:ndl.jp/pid/13075730](https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGM289250Y4A121C2000000/)

<sup>11</sup> 高山善裕「SNS の利用に起因する児童の性被害の現状と対策—自画撮り被害を中心に—」（2021）  
[https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_11643611\\_po\\_20200305.pdf?contentNo=1](https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11643611_po_20200305.pdf?contentNo=1)

<sup>12</sup> 朝日新聞「SNS「闇バイト」応募後に合流 強盗予備容疑で逮捕の 3 人 山口」（2024 年 10 月 22 日）  
<https://www.asahi.com/articles/ASSBQ3QBKSBQTIPE01YM.html>

<sup>13</sup> 朝日新聞「ネットいじめも過去最多に 「見えづらひ事案増えた」 文科省調査」（2023 年 10 月 4 日）  
<https://www.asahi.com/articles/ASRB43W31RB3UTIL03K.html>

で長引いたり、興味を引くコンテンツをとめどなく閲覧したりして、ついつい時間を消費しすぎたという経験がある方も多いのではないのでしょうか。しかし、深夜まで長時間にわたって SNS を使用することで睡眠不足や視力の低下など、健康に悪影響をもたらす可能性があります。実際、SNS の利用は、鬱、不安感、不眠につながるとする研究もあります<sup>14</sup>。肯定側はこうしたリスクを未然に防ぐことができるかと述べることもできるでしょう。

これに対して、否定側は、事業者や親の部分的な規制で十分に過剰使用を防止できることを指摘することも考えられます。その中で、具体的に家庭ではどのような制限が現在利用可能なのか、また、事業者が SNS の依存についてどのような立場に立っているのかについて分析するのも有用でしょう。

#### ・有害情報への曝露の防止

SNS では危険・有害な広告やコンテンツが氾濫しています。例えば、摂食障害のきっかけになる危険なダイエット動画<sup>15</sup>や出会い系サイト・飲酒など未成年には不適切な広告などが挙げられます。SNS では閲覧数に応じて収益が得られる仕組みを採用していることからこうした有害なコンテンツについて自浄作用が働きにくいことが考えられます。有害な情報への曝露から未成年を守ることにしても肯定側は論じられます。

しかし、最近では、多くの Web サイトが広告を埋め込んでおり、SNS と同じように広告が多く見られます。否定側は、SNS 以外のインターネット上の広告との差異について指摘することが考えられます。また、インターネット上の有害なコンテンツについては、フィルタリングなどで対応することも考えられるため、コンテンツ自体ではなく、SNS というプラットフォームを規制する必要があるかについても議論できるかもしれません。

最後に、どのメリットにも共通して言えることですが、SNS の危険性を述べる際は一律禁止を要するほど深刻な問題なのかまで一歩踏み込んで考えていただきたいです。例えば、SNS 上の一部のコンテンツや広告が有害であることが SNS 全てを禁止するべき理由として適切なのでしょうか。SNS が犯罪に使われていれば、有益に・安全に SNS を使用している人も含めて禁止するべきでしょうか。肯定側・否定側ともに全面禁止の意味まで考えると良いでしょう。

<sup>14</sup> BBC News Japan 「「若者の心の健康に最悪」な SNS はインスタグラム＝英調査」（2017 年 5 月 19 日）

<https://www.bbc.com/japanese/39972594>

<sup>15</sup> NHK 「摂食障害の当事者 “SNS での情報が原因の 1 つに” 啓発イベントで」（2024 年 6 月 2 日）

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240602/k10014469001000.html>

<sup>16</sup> 鑑麻樹 「性的少数者を批判する声が SNS で急増 特定非営利活動法人 全国教室ディベート連盟

#### (2) デメリットの例

##### ・人との繋がりの減少

SNS は世界中の人と繋がれるツールであり、幅広い交友関係を可能とします。また、SNS は価値観の近い人と繋がりがやすいため、気の合う人を見つけやすいでしょう。さらに、SNS では匿名で交流できることが多く、率直な意見を発信できることも考えられます。そのため、学校などでは相談できないことを打ち明けるための場所として活用されている可能性があります。例えば、性的少数者、ヤングケアラー、不登校生徒など周りに相談しづらい悩みを持つ学生が自身の抱える苦悩を相談したり、お互いの情報を交換したりする場として SNS はその役割を發揮しています。上記以外にも学校や家庭では相談できない悩みを打ち明ける場として利用する人がいると考えられます。他にも、同じ趣味を持つ友人を作ったり、同じ推しを応援するアカウントを作ったりするなど、交友関係の広がり方は様々です。否定側は人格形成に重要な影響を持つ小中学生の時期にこうした場を失うことをデメリットとして論じることができるでしょう。

一方、肯定側は SNS の人との繋がりが本当に有益なのかについて疑義を呈することができるでしょう。SNS では偏見や差別を煽る内容の投稿も見られ、マイノリティがその標的になることもあります<sup>16</sup>。また、SNS での人間関係に重きを置きすぎること、学校や家庭での生活が疎かになることも考えられます。SNS での人との繋がりを築くことで副作用がないかも考える価値はあるでしょう。

##### ・情報を発信する・知る機会の喪失

SNS は自分の作品や意見を個人が発信する貴重な手段です。絵や音楽を発信するアカウントを作る他、日常生活の投稿にフォロワーから「いいね」をもらうことで自己肯定感を高めるなど、多様な使い方が考えられます。また、自分で発信しなくても、他の人の動画を視聴したり、投稿に反応したりすることもあります。さらに、ハッシュタグ・アクティビズムに代表されるように SNS は社会運動の場にもなっています<sup>17</sup>。このように様々な情報を発信、閲覧する場を失うことで、自分の趣味についての情報を得られるだけでなく、社会問題について興味を持つ機会までも失ってしまう可能性もあります。SNS を通じた情報の共有が社会全体で一般的になっていることを踏まえれば、こうした機会は特に重要と言えるでしょう。

ノルウェー調査」（2023 年 6 月 26 日）

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/c6c1b5d0e364a1b1b5cafb3994da68aab1081f78>

<sup>17</sup> 伊東 由紀子 「“伝統的メディア”と SNS : 2010 年代からの社会運動・フェミニズムからの視座」

(2022) <https://dlisv03.media.osaka-cu.ac.jp/contents/osakacu/kiyo/13483293-24-147.pdf>

ただ、SNSで情報の受発信ができるというだけでは、審判にとってはその相対的な大切さが伝わらないことが考えられます。意見を発信する権利や情報を知る権利がなぜ重要なのかということに落とし込みながら議論を作っていただくにより説得性の高い議論になるでしょう。

一方、肯定側は SNS の情報の有益性について指摘することも考えられます。SNS は匿名性から正確な情報が流布されることもあり<sup>18</sup>、その見極めには注意が必要です。加えて、情報を知る機会については、オールドメディアである新聞やテレビから得られる情報とどのような違いがあるのかについても考えていただきたいです。

#### ・禁止によるアンダーグラウンド化

SNS の利用禁止がのめり込む背景には現実からの逃避がある可能性が指摘されています。そうした中で、全面禁止を実施したとしても、規制に抜け道が生じてしまえば、規制の意味がないどころか逆効果になることも考えられます。例えば、ユーザー登録の際に実年齢とは違う年齢を入力することで中学生以下が登録できてしまうかもしれません。また、オンラインゲームなど他の用途とみなされているプラットフォームを SNS 代わりに使うかもしれません。こうした想定しない SNS 使用が発生した際、親や学校が関知できず、より危険な状況に陥ってしまうかもしれません。ただ、この点を論じる際には、「禁止は肯定側の言うほどの効果がない」、「禁止は全く意味がない」、「禁止はむしろ逆効果である」のうち何を主張したいのかに気をつけて論じてください。

全面禁止が効果的については、肯定側のメリットの発生にも関わる大きな論点になると考えられます。禁止した後の世界がどうなるのか肯定側・否定側双方が充実した議論を展開するのを期待しています。

#### (3) 主な争点

一つの大きな争点は、どうすれば SNS を適度かつ安全に使用することができるかという議論です。禁止という手段に頼らず、事業者の自主規制や保護者の監視、学校での教育などでうまく SNS と向き合っていくことは期待できるのでしょうか。また、SNS を中学生までの間禁止したとして、卒業後の未成年は適切に SNS を扱えるのでしょうか。高校生、大学生でも SNS に関連した犯罪や迷惑行為は数多く見聞きするように、年をとれば自然と適切な SNS の使用が見込めるわけではないでしょう。中学生以下の禁止がどの程度効果的なのかについてよく議論していただきたいです。

もう一つの大きな争点は、SNS とそれ以外のサービスの差についてです。SNS を禁止された小中学生は代わりに何に時間を使うのでしょうか。SNS 以外のもは SNS より安全でしょうか。逆に、SNS 以外では人間関係を構築できないのでしょうか。今の SNS の果たす役割だけでなく、プラン後の世界がどうなるかも含めて考えてみてください。

#### 5. 終わりに

今回の論題は、過去の論題・大会の議論を参考にできる部分もあると思います。しかし、議論を模倣するだけでなく、中学生の皆様の感じることを、思うことを活かした議論を作っていただくことが良い議論への近道だと思います。証拠資料だけに頼らず、自分たちの実体験を活かした議論を見られることを期待しています。

また、論題の対象となる SNS は多くありますが、その利用者や利用目的は様々です。議論に詰まったときは、特定の SNS に絞ってその利用シーンを考えることで具体的な議論を考えてみてください。同時に、特定の SNS について議論するときは、それについて聴衆がどれくらいの知識を持っているかを意識し、適宜補足を行ってください。

皆さんの素晴らしい議論と熱い試合を楽しみにしております。

#### 参考資料

- とも家庭庁成育局「アメリカ合衆国各州における青少年のインターネット環境整備に係る取組等の調査 調査報告書」(2024) [https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/6b2c8f31-578d-4268-a57e-94acd694439f/a94d5ce9/20240329\\_policie\\_s\\_youth-kankyuu\\_internet\\_research\\_02.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/6b2c8f31-578d-4268-a57e-94acd694439f/a94d5ce9/20240329_policie_s_youth-kankyuu_internet_research_02.pdf)
- 高橋暁子『ソーシャルメディア中毒 つなかりに溺れる人たち』(幻冬舎、2014)
- ダナ・ボイド『つながりっぱなしの日常を生きる——ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの』(草思社、2014)
- 成原慧「ソーシャルメディアのアーキテクチャと表現の自由」(2020) [https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_11472870\\_po\\_20190505.pdf?contentNo=1](https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11472870_po_20190505.pdf?contentNo=1)
- 藤代裕之『ソーシャルメディア論・改訂版 つなかりを再設計する』(青弓社、2019)

<sup>18</sup> 読売新聞「能登半島地震、途上国から SNS に大量偽情報…X利用が1日4000万人の日本向け「インプ狙い」」(2024年3月25日) <https://www.yomiuri.co.jp/national/20240324-OYT1T50108/>

☆☆☆お知らせ☆☆☆

ディベート甲子園は 2025 年夏の大会で第 30 回を迎えます。

全国教室ディベート連盟では、30 回大会を記念しての記念企画および企画のためのクラウドファンディングを実施しています。

詳細は以下の記念サイトをご確認ください。

<https://sites.google.com/nade.jp/30web>



☆☆☆維持会員募集サイトも更新しました☆☆☆

全国教室ディベート連盟は大会を支援して頂ける維持会員を募集しています。豊かな対話ができる社会のためにお力をお貸しいただけませんか。

<https://congrant.com/project/nade/14755>



全国教室ディベート連盟は大会を支援して頂ける維持会員を募集しています。豊かな対話ができる社会のためにお力をお貸しいただけませんか。

<https://supporters.nade.jp/>



当連盟作成のディベートの初心者向け教材に「試合・大会振り返りシート」が加わりました。

ディベート甲子園出場を目指される中学生・高校生の皆さん是非ご活用ください。

<https://nade.jp/learning/beginners/startbook>

[k](https://nade.jp/learning/beginners/startbook)

